

1 二次評価・選定方法について

(1) 採点方法の見直しについて

①重要度、評価の追加

当初 評価項目毎に重み付けをした配点内で評価点を付ける。

変更 評価項目の配点をさらに主な評価視点毎に重要度を定め評価し、評価の合計を評価点とする。(重要度内で評価する)

理由 当初の評価方法では、各委員の視点で評価することになるため、評価点にバラつきが生じる恐れがあり、点差に客観性がなくなってしまう。
このため、予め重要度を定めることにより、同じ視点で評価することが出来るようになり、評価点にも客観性が保たれる。

②社会的要因・所見への加算

社会的要因や所見で重大な問題がない（A評価）候補地に加算する。

(2) 重要度の配点について

①配点理由と配点

資料 2-2 のとおり

(3) 二次選定方法について

①A、Bの評価判断について

A：立地が可能と考えられる候補地
＝検討すれば可能

B：立地には詳細な検討を要する候補地
＝検討しても困難

※評価点数で判断するものではなく、順番を付けるものでもない。

例 評価点が高くても社会的要因や所見に重大な問題がある場合
＝B

評価点が低くても課題に対し検討の余地があり、社会的要因や所見に重大な問題がない場合
＝A

参考

評価項目（評価点）	高い	高い	低い	低い
社会的要因・所見	A	B	A	B
評価（総合判定）	A	B	A	B

②評価判定理由の記載について

A、B評価の判定結果は、評価点数による判定ではないので判定した理由が分からず、二次選定に不透明感が生じてしまう。

よって、判定理由を記載することにより、評価点数や社会的要因、所見等を総合的に評価した結果が分かり客観性が保たれる。

③選定方法について

当初 A評価の判定結果が多い候補地順に3箇所程度、数が多い場合は評価点が高い順に選定し協議を行う。

変更 A評価の多い候補地順に候補地として可能性がある場所を選定する。
(3箇所にこだわらない)

理由 立地が可能と考えられる候補地について柔軟に選定するため。